

令和8年1月29日

滋賀県内経済情勢報告

(令和8年1月判断)

1. 総論

【総括判断】 「緩やかに持ち直している」

| 項目 | 前回 (7年10月判断) | 今回 (8年1月判断) | 前回比較 |
|------|--------------|-------------|------|
| 総括判断 | 緩やかに持ち直している | 緩やかに持ち直している | → |

(注) 8年1月判断は、前回7年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、持ち直しつつある。

【主な項目の判断】

| 項目 | 前回 (7年10月判断) | 今回 (8年1月判断) | 前回比較 |
|------|----------------------|----------------------|------|
| 個人消費 | 緩やかに持ち直しつつある | 緩やかに持ち直しつつある | → |
| 生産活動 | 緩やかに持ち直している | 緩やかに持ち直している | → |
| 雇用情勢 | 持ち直しつつある | 持ち直しつつある | → |
| 設備投資 | 7年度は前年度を上回る見込みとなっている | 7年度は前年度を上回る見込みとなっている | → |
| 企業収益 | 7年度は減益見込みとなっている | 7年度は減益見込みとなっている | → |

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに持ち直していくことが期待される。ただし、今後の物価動向、米国の通商政策等の影響に注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「緩やかに持ち直しつつある」

百貨店・スーパー販売は、消費者の節約志向がみられるものの、物価上昇の影響により、前年を上回っている。

コンビニエンスストア販売は、物価高により客単価が上昇しており、前年を上回っている。

ドラッグストア販売は、食料品や医薬品などの売行きが好調となっており、前年を上回っている。

ホームセンター販売は、物価高による客足の減少がみられており、前年を下回っている。

家電大型専門店販売は、パソコンなどが好調であり、前年を上回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、普通・小型車、軽自動車ともに前年を下回っている。

観光動向は、国内客を中心に堅調となっている。

(主なヒアリング結果)

- 買上げ点数は減少しているものの、各種商品の値上げにより売上は増加している。なお、消費者の節約志向もあって比較的安価なプライベートブランド商品では、食料品のほか生活雑貨などへのニーズの広がりもあり、売上は年々増加している。(百貨店・スーパー)
- 値上げ効果により売上は前年を上回って推移しているが、郊外ではドラッグストアなどとの競合が激しく、厳しい環境が続いている。(コンビニエンスストア)
- インフルエンザの早期流行等により、総合感冒薬等の医薬品の売上が前倒しで増加した。また、一定の食品売場を有する店舗では、日配品を含む食料品の売上が好調となっている。(ドラッグストア)
- 物価高により客単価は上昇しているものの、ドラッグストア等との価格競争により来店客数が減少しており、売上は前年を下回っている。(ホームセンター)
- パソコンの更新需要に加えて、エアコンの売行きが好調であったほか、ドライヤーなどの理美容器具では高級な商品への需要が高まっており、売上は前年を上回っている。(家電量販店)
- 一部の人気車種で納期が長期化している状況にあり、全体に影響を及ぼしている。(自動車販売店)
- 大阪・関西万博の開催により団体客が減少していたが、足下では回復しており、国内客を中心に客足が好調となっている。(運輸)
- 原材料価格の上昇の都度、メニュー改定と併せて価格転嫁を行っているが、客足への影響は特になく、売上・客数ともに増加している。(飲食サービス)

■ 生産活動 「緩やかに持ち直している」

鉱工業指数(生産)で見ると、生産用機械などが低下しているものの、電気・情報通信機械や化学などが上昇しており、生産活動は、緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- ハイブリッド車向け電装関連機器が好調。特に、メンテナンス用の需要が旺盛となっている。(電気機械)
- ドラッグストア向け風邪薬等の一般用医薬品が好調。大手製薬会社からの受託生産が増加している。(化学)
- 半導体製造関連について、AI 事業拡大に加えて、データセンター向けの需要が旺盛となっているが、EV 向けでは一部に弱い動きがみられている。(生産用機械)
- 足下ではモデルチェンジまでの期間が長くなっていることから、自動車部品製造向け装置の需要が低調となっている。(汎用機械)
- 食料品の値上げにより菓子類の購入点数が減少していることから、食品包装材の需要が停滞している。(プラスチック)

■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

新規求人数は前年を下回っているものの、有効求人倍率は上昇しているほか、法人企業景気予測調査（10～12月期）では、製造業・非製造業ともに「不足気味」超となっていることなどから、雇用情勢は、持ち直しつつある。

（主なヒアリング結果）

- 新卒採用はコンサルティング会社を活用している。スカウト型転職サイトでのオファーやインターンシップの実施など、選考までの工程を一任しているが、コストはかかるものの、ミスマッチが少なくなったほか安定的に必要な人員の確保が可能となった。 （金属製品）
- 立地的な問題もあり、人員の充足見込みが立たないことから、生産縮小も視野に入れている。 （化学）
- 製造現場での人員については計画通りの採用ができていないことから、不足分を派遣社員で補っている。派遣社員の多くは外国人労働者が占めているが、立地も良くないため人材が集まりにくいなかで、外国人材の受入れを積極的に行っている。 （輸送機械）
- 人手不足を解消すべく、SNSによる情報発信やインターンシップの受入強化を行っている。 （運輸）
- 人手不足が続くことから、工事現場での作業工程の見直しや、省人化に資する機械の導入を進めている。 （建設）

■ 設備投資 「7年度は前年度を上回る見込みとなっている」 「法人企業景気予測調査（全産業）」7年10～12月期

7年度の設備投資は、全産業で12.3%増（対前年度増減率、以下同じ。）の見込みとなっており、産業別では、製造業で▲1.5%減、非製造業で27.8%増の見込みとなっている。

■ 企業収益 「7年度は減益見込みとなっている」 「法人企業景気予測調査（全産業）」7年10～12月期

7年度の経常利益は、全産業で▲18.3%（対前年度増減率、以下同じ。）の減益見込みとなっており、産業別では、製造業で▲23.8%の減益見込み、非製造業で10.8%の増益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

新設住宅着工戸数でみると、持家などが減少していることから、全体で前年を下回っている。

■ 公共事業 「前年を下回っている」

前払金保証請負金額でみると、独立行政法人等で減少していることから、全体で前年を下回っている。

■ 企業倒産 「件数、負債金額ともに前年を下回っている」

倒産件数、負債金額ともに前年を下回っている。

■ 企業の景況感 「「下降」超となっている」 「法人企業景気予測調査（全産業）」7年10～12月期

企業の景況判断 BSI でみると、現状判断は「下降」超となっている。先行きについても「下降」超の見通しとなっている。

お問合せ先： 大津財務事務所 財務課 TEL077-522-6455